岡崎民報
'13. 1. 13
No. 1134

岡崎市広幡町一の一
TEL ２３の３３３７
Fax ２１の０７１２
日本共産党岡崎市委員会

12月定例議会　一般質問

大型公共事業のあり方について

新市長の打ち出したリバーフロント計画とは

昨年12月議会において、日本共産党岡崎市議団が行った一般質問をご紹介します。一部の概略については、12月市議団ニュースに掲載しています。

「リバーフロント計画」は、昭和63年ころから中根元市長が「東岡崎の駅前広場に川をとりこんだ構想で、乙川に広い橋を架け、橋が広場の形態を持つ」と構想したモノですが、平成８年に「河川は災害に対する防災が第一であると河川（県）が非常に強い意志をもっている。旗を巻く気はないが、時期を見ておる」と議会で答弁し、それ以降、リバーフロント構想が消滅しました。

リバーフロント計画とは

【質問】市長のパンフレットにある橋上公園とは、殿橋と明代橋のあいだにフタを掛けてそこを橋上公園にしていこう、という計画なのか。

（答弁）ツインブリッジ構想を含めたリバーフロント計画は殿橋から明代橋までの乙川の全面にふたをかけるモノではないが、橋上公園の要素を盛り込むなどの案を含め様々なイメージ構想案がある。

今後広く皆様からのご意見を聞きながら拙速に走らず構想案を進めていく。

工事の規模は？

【質問】土木工事としての規模はどの程度のことをお考えか。

（答弁）具体的構想はこれからだが、橋を含めたリバーフロント計画は関係法令をふまえ、管理者と協議していきたい。

計画の範囲は？

【質問】河川敷については、すでに遊歩道などに利用されている部分もある。そこにコンクリートで手を入れることは不必要。市長は乙川のどの範囲の整備をお考えか。

（答弁）

東岡崎駅周辺整備、地区や中心市街地活性化地区と連携させて相乗的な効果が生まれるように考えていきたい。

河川管理との関係は？

【質問】中根市長が、断念した「河川との関係」の課題をクリアできるとお考えか

（答え）管理者である県、関係法令をふまえて関係機関と協議して実現可能なモノで考えていきたい。

大型公共事業についての考え方を問う

民主党政権が「コンクリートから人へ」と3年前の選挙で訴え、いったんは八ツ場ダムなどの計画凍結を言いながら結局は、再開となり、大型公共事業中心の政治に国民は裏切られた。

子ども科学館について「本当に必要か吟味する」

岡崎市でも「むだなコンクリート政策」をもちこまないことを要望します。柴田市長が立ち上げた子ども科学館は、「不急不要の事業であり、行うべきではない。建物よりは学校の実験器具や実験助手などの配置を」と要求してきました。

【質問】市長は40億円もの予算をかけてこども科学館の建設は必要だとお考えか

（答え）総合計画、行政の継続性、市民サービスのあり方、市民ニーズの情勢をよく把握して判断したい。

新しい施設については、事業費だけでなく、事業運営費や維持管理費を検討し、本当に必要か吟味していきたい。

「ツインブリッジ」
「リバーフロント計画」についての
内田市長の構想＜12月議会以降＞

●市長ブログより

ツインブリッジについては、耐用年数をすでに経過している殿橋と東岡崎駅前にある明代橋のふたつの橋については朝夕の渋滞対策として橋を拡幅して架け変えたいと思っている。さらに橋の交通機能の改善に加えて、以下の六つの要素を加えたいと思っている。

① 橋上に市民のくつろげる公園機能をもたせる。（くつろぎ）
② 岡崎の伝統産業・石工の技術の粋を尽くした装飾を橋にほどこす。（技術の伝承）
③ 中心市街地へ人が歩いて回る導線に（観光）
④ 人が歩くことによる商店街の活性化。（にぎわい）
⑤ 岡崎の新たなシンボルとして子供たちが誇りにできる橋。（愛郷心）
⑥ 橋の下には屋根のある広場ができ照明により夜まで使える。（民活空間）

多くの思いをこめたプランであり、単に派手な橋を作って観光名所にしようといった安易なものではない。

１００周年を記念して事業を始めるという余裕のある計画であり、実施にあたっては専門家、商工会議所、町おこしの会、一般市民の声など幅広くご意見を賜り、修正を加えながら進めて行こうという構想。当初私は、同じような橋をふたつ造ろうと考えていたが、今は違うコンセプトのものをふたつにした方がよい気がする。例えば石のモニュメント橋と橋上公園橋のように機能をはっきり分けた方が無理無駄が少なくて済む。さらに観光政策的にも目玉がふたつの方がいい。

交通機能だけは早期に回復させるが、他については単年度に大きな財政的な負担とならないようゆるやかに事業を進展させていく。（１０年計画でも可。）